

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(八雲町)

| 保険者名 | 第8期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R4年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|-----------------------|--|--|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第8期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 八雲町 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 介護予防の取組は、行政主体の介護予防教室が中心であったが、第7期において、町民の自主的な活動の育成を目指し、八雲地域では「いきいき百歳体操」を活用した地区支援を行い10か所の実施が所が出来た。 熊石地域では住民主体となって各地区の会館や空き店舗、自宅を会場に茶話会や運動の実践、レクゲームなど多様な集いの場「地域サロン」が8か所できて活動している。 第7期においてある程度の成果は出ているもののコロナ禍もあり、実施か所の休止や新たな実施などが困難となっている。 | 住民主体の通いの場の充実や新設に向けた取組 | ・住民主体の通いの場の実施地区 (R3) (R4) (R5) 22地区 24地区 26地区 | ・住民主体の通いの場の実施地区 (R3実績：八雲地域10地区、熊石地域8地区) (R4実績：八雲地域14地区、熊石地域11か所) | ◎ | コロナの感染状況により休止・廃止があったが、概ね継続して活動している。コロナ禍ではあったが新規の集いの場も出来、今後も継続して支援を行っていく。 |
| 八雲町 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 介護予防の取組は、行政主体の介護予防教室が中心であったが、第7期において、町民の自主的な活動の育成を目指し、八雲地域では「いきいき百歳体操」を活用した地区支援を行い10か所の実施が所が出来た。 熊石地域では住民主体となって各地区の会館や空き店舗、自宅を会場に茶話会や運動の実践、レクゲームなど多様な集いの場「地域サロン」が8か所できて活動している。 第8期においてある程度の成果は出ているもののコロナ禍もあり、実施か所の休止や新たな実施などが困難となっている。 | 地域における介護予防の取組の強化 | ・短期集中予防サービスの実施回数 (R3) (R4) (R5) 15回 15回 15回 ・地域リハビリテーション専門職の介入回数 (R3) (R4) (R5) 25回 30回 35回 | ・短期集中予防サービスの実施回数 (R3実績：八雲地域2回、熊石地域12回) (R4実績：八雲地域1回、熊石地域19回) ・リハビリテーション専門職の介入回数 (R3実績：八雲地域8回、熊石地域37回) (R4実績：八雲地域3回、熊石地域22回) | ○ | 熊石地域ではコロナの影響もあり、感染状況が落ち着いた時期に住民主体の通いの場においてリハビリ専門職の介入を行った。 フレイル把握事業やケアプラン作成等においてリハビリ専門職の助言をいただき、自立支援や介護予防の強化を図った。 八雲地域では、保健事業と介護予防の一体化事業において保健師による口腔フレイルに関する講話を行ったためにリハビリ専門職の介入はなかった。短期集中予防サービスの実施回数が少なく、回数増に向けた検討が必要である。 |
| 八雲町 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 地域ケア会議は地域包括ケアシステムの実現のための有効なツールとされており、八雲地域、熊石地域それぞれの圏域で、地域ケア会議の5つの機能のうち、「個別課題の解決」、「地域課題の発見」機能を目的とした会議を開催している。しかし「地域づくり・資源開発」、「政策の形成」機能を目的とした会議は開催出来ていない。 | 地域ケア会議の推進 | ・地域ケア会議の開催回数 (R3) (R4) (R5) 24回 24回 24回 ・個別事例検討件数 (R3) (R4) (R5) 18件 18件 18件 | ・地域ケア会議の開催回数 (R3実績：八雲地域8回、熊石地域7回) (R4実績：八雲地域8回、熊石地域10回) ・個別事例検討件数 (R3実績：八雲地域4件、熊石地域11件) (R4実績：八雲地域3件、熊石地域15件) | ○ | 熊石地域はコロナワクチン接種業務のために、会議を2回中止した。コロナ禍でWEB会議でやらざるを得ない状況もあり、対面とZOOMと両方で開催し、画面で動画や写真の共有を行い進めている。 八雲地域では参加事業所のクラスター発生等による会議中止があったことに伴い事例検討数も減っているもので、会議開催が出来れば事例検討数も増えていく。 |

| 保険者名 | 第8期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R4年度（年度末実績） | | |
|------|-------------------|--|---|--|--|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第8期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 八雲町 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢者の身体的、精神的及び社会的な特性を踏まえて、高齢者一人ひとりに対して、きめ細かな支援を行うため、個別的支援及び通い場等への積極的関与を行う必要がある。 | ・通いの場1ヶ所につき年に2回を目安に健康教育・健康相談を実施し、フレイル予防の普及啓発を行う。 ・通いの場や健診の場などにおいて、後期高齢者の質問票を実施し、状況把握を行う。 ・健康状態不明者の対象者を早期に抽出し、対象者を訪問することで、必要なサービスや事業、医療に結び付ける。 | 健康状態が不明の方への訪問実施率 令和3年度 60% 令和4年度 70% 令和5年度 80% 通いの場における健康相談実施箇所数 令和3年度 8箇所 令和4年度 10箇所 令和5年度 12箇所 | 健康状態が不明の方への訪問実施率 令和3年度 63% (対象者72人中実施者45人) 令和4年度 86% (対象者14人中実施者12人) 通いの場における健康相談実施箇所数 令和3年度 6箇所 令和4年度 10箇所 | ○ | 【課題】 ・新型コロナウイルス感染患者の減少による通いの場の再開に伴い、実施箇所は増えたが、1箇所につき、年2回実施できたのは、1箇所のみであった。また、質問票の記入の拒否により、評価できない場合が多かった。 【対応策】 ・健康状態不明者の対象者を早期に抽出し、対象者全員に訪問することで、必要なサービスや事業、医療に結び付ける。 ・通いの場の実施者と早期に日程調整を行い、1ヶ所につき年に2回を目標に健康教育・健康相談を実施する。 |
| 八雲町 | ②給付適正化 | 介護給付適正化は介護保険の信頼性を高めるとともに介護給付費や介護保険料の増大を抑制することを通じて、持続可能な介護保険制度を構築することを目的としている。 介護給付や予防給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なとするサービスを事業者がルールに従って適正に提供できるよう促すことが必要である。 | ①要介護認定の適正化 ②ケアプランの点検 ③住宅改修等の点検 ④縦覧点検・医療情報との突合 | ①訪問調査に関する認定調査状況の内容点検を全件実施 ②町内の全居宅介護支援事業所が作成したケアプランの点検（計画期間中に全事業所を実施） ③住宅改修施行後の現地確認及び利用状況等を確認。福祉用具購入・貸与者への訪問による利用状況の確認 ④国民健康健康保険団体連合会への業務委託による全件実施 | ①R3・R4 全件実施 ②R3・R4 1事業所のケアプランを点検 ③R3 住宅改修の利用状況を全件確認済み。福祉用具購入・貸与者への訪問は実施できず R4 住宅改修の利用状況を全件確認済み。福祉用具購入者への訪問を実施 ④R3・R4 点検・突合とも全件実施 | ○ | 福祉用具購入・貸与者への訪問確認に関するルールを設定し、令和4年度に初めて購入者に対する訪問を行い、使用状況を確認を実施した。 その他の事業についても、計画通り実施できており、今後も継続して適正化を進めていく。 |